

# 令和5年度 伊那市立西箕輪小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
○よく考えすすんでやりぬく子 (知)	<学校経営ビジョン> 温かい学校・学級づくりと、学び合いのある授業を通して、思考力・判断力・表現力を高め、自立した児童を育てたい。
○体を鍛えたくましい子 (体)	<b>今年度の重点目標</b>
○美しさ温かさのわかる心豊かな子 (徳)	(1)きく・問う・ <b>学び合い</b> ・友の言葉に耳を傾け、相手の考えを理解し、受け入れる子の育成 ・自分の考え・問いをもち、自ら動き出し、学び合いを通し、解決方法を見つけ、自己決定ができる子の育成
	(2)運動(あそび)・ <b>そうじ</b> (勤労)・体験活動 ・健康な体でがんばりぬける子 気づいてそうじができる子の育成
	(3) <b>あいさつ</b> ・道徳・思いやり ・自分、仲間、社会と向き合い、あいさつ・感謝ができる子の育成

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
○保護者に向けた学校評価アンケートでは、「お子さんは学校へ行くことが楽しいと感じていますか」の質問項目に対して「よくあてはまる・あてはまる」と答えた保護者が86%であった。児童については、低学年児童の約78%、高学年児童の約82%が「楽しい」と答えている。一方、学校生活に馴染めない児童や、集団適応が困難な児童もおり、こうした児童に対するより丁寧な対応が求められている。今年度は、特に支援を必要とする児童への支援体制や保護者との相談体制を充実させながら、「温かい学校・学級づくりと、学び合いのある授業を通して、思考力・判断力・表現力を高め、自立した児童を育てる」ことを目標に取り組みを進めてきた。次年度も「温かい学校・学級づくり」、「学び合いのある授業を通して、思考力・判断力・表現力を高め、自立した児童を育てる」ことをめざし、よりいっそうの取り組みを進めていきたい。		
(1)日々の授業では、特に「きくこと」を大切に職員で授業改善を行ってきた。全国学力・学習状況調査の児童質問紙では、話し合う活動に取り組んでいるという肯定的な回答がおよそ80%を超える結果となった。一方で、自分の考えをまとめる活動や他者に自分の考えを伝える活動に取り組んでいるという肯定的な回答は、県や全国を下回る結果となった。	A a	○引き続き、「きくこと」を大切に授業づくりを行っていく。子どもたちが自由に試行錯誤・対話できる授業環境をつくり、自分の考えをまとめる活動や他者に自分の考えを伝える活動を意図的に設定する。
(2)時間いっぱい集中して掃除に取り組むことができる児童が増えているが、さらに多くの児童が根気よく気づいて掃除に取り組めるようにしていきたい。	B b	○職員による清掃指導、児童会清掃委員会の取り組み、各学年・学級の取り組み等によって、児童が清掃における自分の役割を果たし、勤労や公共の場の利用の大切さを感じることができるようにしていきたい。
(3)児童会の代表委員会によるあいさつ運動やPTAの総務部のあいさつ・ハイタッチ運動等が実施された。児童に行った生活アンケートで、「自分からあいさつをしている」と答えた低学年児童は、約76%、高学年児童は約62%であった。日常的にあいさつのできる学校をめざしたい。	B b	○児童会やPTAの活動・運動の継続と共に、職員一人一人が自ら児童にあいさつをし、学校全体でよりあいさつや感謝をしていく気運を高めていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○教育課程の編成	○教科横断的な視点での教育課程の編成がなされているか ○教育実践の質向上のためのPDCAサイクルの確立がなされているか ○校内外の人的・物的資源を活用する教育課程編成がなされているか ○思考力・判断力・表現力の育成がなされているか
		○教育課程の実施	○「きく・問う」を軸とした授業づくりや教育活動が行われているか ○授業のユニバーサルデザイン化されているか ○ICT活用教育は充実しているか ○家庭と連携した、家庭学習(自主学習)の習慣づけをすることができたか
	学習指導	○学校教育の基本	○児童は、学習したことや体験したことを生かして学ぶことができているか ○児童は、変化に積極的に向き合い、主体的に判断し、課題解決することができるか ○児童は、多様な考えを受け入れ、協動的に学び、自分の考えをよりよくすることができるか
		○学習評価を通じた学習指導の改善	○児童は、学習したことや体験したことで学習活動等を比べたりつなげたりしているか ○児童は、状況が変化しても主体的に判断し、課題解決の方法を見出しているか ○児童は、自分の考えをもち、学び合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりしているか
	生徒指導	○お互いの違いを認め合うあたたかな学年、学級経営	○失敗が許され、安心して過ごせる教室、学校(人権教育)になっているか ○チーム対応 職員間の情報共有及び外部機関との連携により、チームで支援しているか ○いじめ等に対する迅速かつ適切な初期対応及びチーム対応ができているか
		○配慮を必要とする子どもへの指導	○個に応じたきめ細やかな指導がされているか ○インクルーシブ教育の推進がされているか ○適切な学びの場の検討がされているか
学校運営	安全	○教育活動全般における安全対策	○児童の安全や健康について意識し、安全や健康を確保することができたか
		○自分の命は自分で守る子どもの育成(安全教育・防災教育)	○児童自身が安全を意識し、安全を確保できるようにするための教育活動を行うことができたか
	地域との連携	○学校・学年・学級日より、HP等による積極的な情報発信がされているか ○「顔の見えるPTA活動」を意識して連携ができているか	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○教科横断的な視点での教育課程の編成については、さらに各教科の特質をふまえ、関連性をとらえて行う必要がある。 ○校内の異年齢交流や学校間交流は、継続的に行われたが、総合的な学習の時間については、学校の教育目標との関連を図り、地域の実態に応じてふさわしい探究課題を設定していく必要がある。	A a	○総合的な学習の時間については、学校の教育目標との関連を図り、地域の実態に応じてふさわしい探究課題を設定するとともに、地域のコミュニティースクールコーディネーターと連携しながら、校内外の人的・物的資源をさらに活用していく。
○支援会議を通して、個別の支援が進みつつあるが、授業のユニバーサルデザイン化について学校全体で進めていけるようさらなる検討が必要である。 ○児童に行った生活アンケートで、「自分から宿題をやっている」と答えた低学年児童は、約85%、「自分から家庭学習に取り組み分からないことを聞いたり調べたりしながら学ぼうとしている」と答えた高学年児童は約72%であった。	A a	○特に通常の学級における授業のユニバーサルデザイン化に目を向け、校内研修の機会を設けたり、日常的な取り組みをしたりする。 ○学校全体として情報リテラシーに関する取り組みを進め、学習ツールとしてのICT活用が日常的に行われるようにする。
○児童に行った生活アンケートで、「授業中自分の考えを伝えている」と答えた低学年児童は、約59%、高学年児童は約58%であった。「課題解決に向けて、互いの考えを伝え合う」機会をさらに設け、協動的な学びを推進していく必要がある。	B b	○主体的に判断し、課題解決をする学習場面を意図的に設定し、児童が「伝える」「きく」ことを意識しながら、多様な考えを受け入れ、協動的に学び、自分の考えをよりよくすることができることをめざしていく。
○児童に行った生活アンケートで、「授業の内容がおよそ理解できている」と答えた低学年児童は、約76%、高学年児童は約85%であった。保護者の79%も同様に感じている。 ○学習支援ボランティアの感想からは、「児童は学習に前向きに学習に取り組む基礎的な知識を習得しているが、特に応用問題において個人差が大きく、個別の支援が必要である」ことがうかがえる。	A a	○個々の発達段階や学習の習熟度を的確に捉え、個別最適な学びの実現に向けた方策を探っていく。 ○引き続き、学習支援ボランティアの協力を得ながら、個に対応したきめ細やかな学習支援を進めていく。
○児童に対していじめに関する実態調査を行い、迅速かつ継続的に対応をすることができた。児童に対するアンケート調査では、「思いやりの心を持って友達となかよく関わろうとしている」という質問に、およそ93%の児童が肯定的な回答をした。	A b	○児童が担任や校内職員に相談をする「相談週間」を年間計画に位置づけ、いじめ等に対する迅速かつ適切な初期対応及びチーム対応ができるように体制を整える。
○「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」をもとに、一人一人の教育的ニーズを把握し、校内・保護者・地域で連携し、支援することができた。	A a	○特別支援コーディネーターや適応指導係を中心とした校内の相談・支援体制をさらに充実させ、外部の関係諸機関と連携しながら特に配慮を必要とする児童への指導・支援や家庭支援を行う。
○インフルエンザや新型コロナウイルス等の感染症拡大防止に向けて、職員連絡会、掲示、校内放送により職員の意識を高めた。 ○安全点検においては、あらゆる危険性を想定して安全確保に努めたが、体制を整えてより複数の目でさらに細心の注意を払って点検していく必要がある。	A b	○引き続き、感染予防対策と児童の健康観察を丁寧に行う。 ○安全点検カードをより見やすいものにし、安全点検においては、室管理責任者、安全係、目直巡視、教頭巡視により複数の目で細心の注意を払って点検を行う。 ○安全ひまわり隊やPTAと連携した見守り活動を継続する。
○交通安全教室においては、安全協会、育成会、駐在所の方を招いての交通安全指導とDVD視聴による交通安全指導を並行して行った。 ○年3回の避難訓練と毎月の集団登下校により児童の安全に対する意識が高まった。	A a	○交通安全について、適宜児童に指導するとともに、交通安全教室や集団登下校の折により意識が高まるように指導をする。 ○緊急時における保育園・中学校との合同引き渡しについて、どのような形で行うのか、訓練も含めてその在り方を検討していく。
○定期的に学校・学年・学級だよりを発行し、学校や各学年・学級の様子を保護者に伝えることができた。また、メール配信システム「オクレンジャー」を活用し、安全・安心を確保するための情報や各種お知らせを各家庭に届けることができた。学校評価アンケートでは、学校から家庭への情報発信について、およそ95%の保護者から肯定的な回答を得ることができた。 ○小中学校合同のPTA講演会を開催し、保護者と高学年児童がともにLGBTQについて学ぶことができた。	A a	○今後も紙ベースとメール配信システムによる情報発信を内容に応じて行い、保護者に学校の様子を伝えていく。 ○PTAの活動内容に合わせた組織の再編を行うが、必要な活動は継続し、より充実していくように役員・全保護者と連携をする。

	○地域との連携	○学びの連続性を意識した幼保小中の連携がされているか ○西箕輪（CS）の人材、地域資源を生かした学校づくりがされているか	○幼保小連絡会や小中連絡会、小中職員授業参観・来入児一日入学等を通して、児童・生徒理解を深めると共に、特別支援教育 Co 間の連携、適応指導についての連携を進めることができた。 ○読書ボランティア、学習支援ボランティアをはじめ、書写指導、手話指導、性教育、情報教育等においてボランティア・外部講師の活用をすることができた。学校評価アンケートでは、およそ90%の保護者から地域との連携についての肯定的な回答を得ることができた。	A b	○保育園、中学校が隣接している地の利をいかし、保・小・中のスムーズな接続とさらなる交流を推進していく。伊那養護学校との交流についても、引き続き行っていく。 ○地域に開かれた学校、地域とともに歩む学校をめざし、今後も地域との連携を図っていく。外部講師やボランティアについては、必要に応じて西箕輪CSコーディネーターに依頼をする。
研 修	○校内研究の充実	○「単元を通してつきたい力」を明確化するための校内研修は充実しているか ○教科担任制を含めたチーム支援のための校内研究がされているか	○年間を通して、学級担任および専科教員による「1人1授業公開」を行い、互いの指導・支援について学び合うことができた。また、指導主事学校訪問による指導を受けながら、より質の高い授業をめざした授業研究を行うことができた。 ○一部の学年内で、算数や理科における教科担任制の試みをした。学校全体でさらに教科担任制について検討し、より多くの学年で実施できるようにする必要がある。	A b	○今後も外部講師や指導者の協力も得ながら、教員間で授業を見合う機会を設け、より質の高い授業を追究していく。 ○教科担任制の在り方については、他校の実践を参考にしながら校内で検討し、本校の実情に合った形を模索していく。
	○校内研修の充実	○職員の資質・能力向上のための研修を積極的に行うことができたか (非違行為防止研修、ICT教育の充実のための研修等)	○非違行為防止研修については、毎月計画的に位置づけて行うことができた。 ○ニュースポーツについての研修を年間計画に位置づけて行うことができた。 ○ICT自主研修会を企画し、GIGAサポーターの協力のもとに2回実施することができた。	A b	○非違行為防止研修については、今後も職員会の中に計画的に位置づけて行っていく。 ○ICT活用・情報教育に関する研修、児童理解に関する研修(特別支援教育、適応指導等)を積極的に行い、職員の指導力の向上をめざす。